

## 熊本県の地産地消の推進に関する施策の報告

### 1 平成26年度の主な取組み実績について

くまもと地産地消推進県民条例に基づき、県が取り組んだ地産地消の推進に関する平成26年度の主な取組みの実績については次のとおりです。

#### (1) 県民の県内農林水産物等への理解の深化及び郷土愛の育成

郷土料理の伝承、「食育」及び「木育」に係る活動、各種広報を活用した県内農林水産物等に係る情報提供等を行い、県内農林水産物等に対する理解を深め、郷土愛を育む。

主な取組み実績	部 局
<p><b>〇くまもと地産地消活動支援等事業のうち地域密着型の機運醸成</b> 地域に根ざした地産地消の取組み推進のため、県内10地域(市町村)で地場産農林水産物の利活用促進の様々な活動を支援。</p>	農林水産部
<p><b>〇くまもと地産地消活動支援等事業のうち地産地消サイト</b> ホームページや月2回発信のメールマガジンを活用して、地産地消の推進を行う協力店や料理方法、イベント等の情報を発信し、消費者と生産者の共生関係づくりに向けた意識啓発を行った。</p>	農林水産部
<p><b>〇くまもと地産地消活動支援等事業のうち直売所支援</b> 県産農林水産物等の販売拠点である直売所を組織化し、各直売所のイベントをまとめて県内外にPRする「くまもと『地産地消』直売所キャンペーン」を県内の7つの地域で実施し、消費者の誘導を図った。</p>	農林水産部
<p><b>〇くまもとの卸売市場魅力アップ支援事業</b> 卸売市場関係者の意識の向上のための研修会開催、県産農林水産物の認知度アップと消費拡大を図るための消費者対象の料理教室開催、HPによる情報の発信を行った。</p>	農林水産部
<p><b>〇くまもと里モンプロジェクト推進事業(耕作放棄地を活用した農業体験等)</b> 保育園、学校、地域団体、NPO法人等が事業主体となり、児童・生徒・地域住民等が農業体験活動、食の体験活動に取り組んだ。 (実績) 保育園等の6団体が、耕作放棄地160aを再生。前年度に本事業で再生した農地を活用した農業体験等についても3地区が実施した。</p>	農林水産部
<p><b>〇ふるさとの食継承・活用推進事業のうち食文化継承事業、郷土料理普及推進事業</b> 「くまもとふるさと食の名人」の新規認定を行うとともに各地域で研修等を実施し活動の支援を行った。また、くまもとの食文化(6地域)の記録・伝承のため「くまもとのふるさとの食レシピ集」を作成した。 (実績) 新規認定者17名(総数296名)、レシピ集作成(上・下巻各3,000部)</p>	農林水産部

<p><b>○農林水産業・地域の振興推進事業のうちくまもと農業フェア負担金</b>      農業フェアの場を活用し、県民に本県の農畜産物を広くPRするとともに、「食の安全・安心」、「農業の多面的機能」等について理解を促進した。      (実績)開催日:平成26年11月8・9日、場所:熊本県農業公園「カントリーパーク」、参加者数:約26,000人(二日間計)</p>	農林水産部
<p><b>○くまもとの米・麦・大豆魅力発信・競争力強化事業</b>      小学生を対象にした学習小冊子の配布や小中高生等を対象とした食育研修会を実施したほか、農業団体による体験学習会等の食育活動を支援し、地産地消への意識啓発を図った。      (実績)学習小冊子配布数 約13,000部</p>	農林水産部
<p><b>○特用林産物流通促進事業</b>      特用林産物の生産技術向上、流通・販売促進、普及啓発により、県産特用林産物の需要拡大に努めた。      (実績)「くまもと春のしいたけ祭り」(5月)※来場者数2,500人、「竹の日フェスタ」(7月)等のイベント開催。</p>	農林水産部
<p><b>○くまもと県産材総合PR事業</b>      木材関係事業者が組織する団体が主体的に取り組む、県産木材の良さ、使用する意義等についての普及啓発にタブロイド紙を活用した広報PR活動に対して支援した。</p>	農林水産部
<p><b>○木材利用普及啓発事業</b>      県下11地域の木材需要拡大協議会が主体となって行う、木工教室や木製遊具の寄贈による消費者への木材の良さ・利用の意義の伝達や、公共性の高い団体への木材利用の要望等の活動を支援した。</p>	農林水産部
<p><b>○くまもとの木と親しむ環境推進事業</b>      児童・生徒が県産木材の良さを理解し、親しめる環境を整備した。      (実績)木製遊具の貸出し(21件)、木製机・椅子等の整備補助(13施設)、木材を材料とするものづくりイベント開催(4回)、副読本配布(小学生18,000人、中学生18,000人)</p>	農林水産部
<p><b>○くまもとの魚流通支援事業のうち地魚マスター活動支援</b>      くまもと地魚マスターの活動を活性化させるために、全体会議を開催し、情報交換を実施。      (実績)3月4日、意見交換会及び講習会を実施。出席者12名。</p>	農林水産部
<p><b>○ふるさとくまもと応援寄附金推進費のうち「感謝の品贈呈」</b>      「ふるさとくまもと応援寄附金」に係る寄附者に対して、熊本県からの感謝の意を示し、併せて県産品のPRに資することを目的として、感謝の品を贈呈した。      (実績)総計5,997セット送付</p>	総務部

<p><b>○ロアッソ熊本支援県民運動推進事業</b>  ホームゲームにおける県内市町村の地域物産展の開催や県外アウェーゲームにおいても熊本県産品等のPRを実施。  (実績)ホームゲームでは県内7市町村の地域物産展を開催し、県外アウェーゲームでは4回熊本県産品のPRを実施。</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○「くまもと手仕事ごよみ」推進事業</b>  HP・FB「くまもと手しごと研究所」を継続して運営。旬な話題と季節に応じた伝統的手仕事(芸能・食・工芸)情報を広く発信。二十四節気毎の手仕事動画を作成。その他、バスツアー、展示即売会、企画展示等の各種イベント、テレビ番組やCMを活用したPR活動を実施。</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○天草空港利用者に対する県産品の提供及びパンフレットの配布</b>  天草エアライン機内にて地域の県産品(加工食品を含む)を提供することで、地域産業の振興を推進した。</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○阿蘇くまもと空港キャラクターを活用した県産品による空港PR事業</b>  阿蘇くまもと空港ターミナルビル内売店にて、空港イメージキャラクター「あそらくん」を活用し県産品(加工品)・グッズを販売し、阿蘇くまもと空港の知名度を向上させた。</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○子どもの食育推進事業</b>  地域における食育相談事業(5ヶ所で実施)において、地元の食材を使用した調理実習を実施した。  九州・四国ブロック別児童福祉施設給食関係者研修会(11/7開催)において、参加者464名に本県の食材を使用した昼食を提供した。</p>	<p>健康福祉部</p>
<p><b>○健康食生活・食育推進事業</b>  食生活・食育に関する連携会議や研修会等で、関係団体から地産地消関連の事例報告を行った。また、「くまもと健康づくり応援店」の指定店舗拡大や普及・啓発を通じ、地産地消についても普及・啓発を行った。  (実績)応援店H26新規指定数:33店舗、総店舗数:384店舗</p>	<p>健康福祉部</p>
<p><b>○おやつで育む食育実践講座事業</b>  県食生活改善推進員連絡協議会への委託により、県下50ヶ所の放課後児童クラブで「おやつで育む食育実践講座」を実施。検討会議を通して地域の産物を使った食育講座の活動プログラム(案)を複数開発した。  (実績)食育講座の開催:県下50ヶ所、計100回の実施</p>	<p>健康福祉部</p>
<p><b>○「大型店の立地に関するガイドライン」による大型店への協力要請</b>  新設大型店舗及び増床の大型店舗に対し、ガイドラインに基づく地域貢献への取組みを要請した。  (実績)新設10店 増床1店</p>	<p>商工観光労働部</p>

<p><b>○ようこそくまもと観光立県推進計画展開事業のうち「選ばれる観光地くまもと」観光キャンペーン展開事業、観光PR事業</b>          観光キャンペーンのパンフレットや季刊誌(年4回発行)、ホームページ等の媒体を通じてあか牛やトマト等の地元産食材を使った料理や土産品等を紹介。また「新ご当地グルメ発掘図鑑・丼バージョン」を発行し、「あか牛丼」や「天空まぐろ丼」など地元食材を使った10種類の新ご当地丼グルメを紹介。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○地元食材を使った料理セミナー</b>          熊本県旅連女将の会会員・旅館・ホテル・観光関連事業所の料理人や料理に興味のある高校生などを対象に地元食材を使った料理セミナーを八代市、玉名市で開催し、それぞれ80人、40人の参加があった。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○庁舎内県産品展示コーナー設置事業</b>          県庁本館1階ロビー受付横に県産品展示コーナーを設置し、デコポン等の農林水産物、球磨焼酎等の加工食品、天草陶磁器等の伝統工芸品の展示を行い、県産品の魅力をアピールした。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○食育推進事業</b>          「ふるさとくま(熊)さん(産)デー」の取組として県産物を活用した郷土料理や伝統料理を学校給食で提供するとともに、栄養教諭・学校栄養職員講習会等で地場産物活用についての理解促進を図った結果、平成26年度の活用率は前年度を0.4ポイント上回り50.9%であった。</p>	<p>教育庁</p>

**(2) 県内農林水産物等の流通の促進及び消費の拡大**

県内の物産館、直売所及び量販店における県内農林水産物等の販売促進活動を支援し、県内農林水産物等の流通の促進及び消費の拡大を図る。

<p>主な取組み実績</p>	<p>部 局</p>
<p><b>○地産地消協力店連携強化・活動推進事業（緊急雇用業務委託）</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域段階における地産地消推進の拠点づくりを行った。</li> <li>・地域ネットワークの支援、「地産地消推進県民条例」の周知に努めた。</li> <li>・SNSを活用した情報発信、くまもと食・農ネットワークの新規会員募集に取り組んだ。</li> </ul> </p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○ジビエ利活用緊急促進事業</b>          「くまもとジビエ研究会」の活動をとおして、ジビエが一般消費者にもかなり浸透してきた。          (実績) 「くまもとジビエ料理フェア参加店舗」が当初の約2倍の32店舗となった。</p>	<p>農林水産部</p>

<p><b>○くまもとの米粉総合推進事業のうち米粉需要開拓対策事業・米粉食品普及推進対策事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米粉需要開拓のためアドバイザーによる技術支援(9か所)</li> <li>・米粉食品普及のためインストラクターによる出前講座(6箇所)、料理教室(6回)を実施。</li> <li>・米粉販売キャンペーン、コンテスト(米粉甲子園17校350件以上応募)を実施。</li> </ul>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○県産麦パートナー推進事業</b></p> <p>玉名市における「玉名ラーメン」の即席めんの開発及び、イベントでのPR。玉名市内のラーメン店でのミナミノカオリを使った麺を使用したラーメンの販売。熊本市におけるミナミノカオリを使用した小麦粉を利用したパンの加工開発とイベントによる販売。消費者を招いた交流会の実施。</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○くまもと茶魅力発信支援事業</b></p> <p>「お茶まつり」等のイベント開催や東京でのくまもと茶PR実施、小学校への給茶サーバーの設置、出前講座等により県産茶の消費拡大を図った。 (実績) びふれす広場で茶試飲・販売会開催(3回)、出前講座(14回)、給茶サーバー1台設置(山都町)、福岡県での紅茶PR活動(1回)</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○ひのみどり産地強化対策事業</b></p> <p>QRコード啓発活動やメールマガジンを配信し、熊本県産豊表の周知を行った。各種イベントにおいて豊表展示等を行い、需要拡大や生産体制の強化を図った。需要拡大啓発パンフ(くまもとのい業)を印刷し配布した。 (実績) パンフレット印刷部数 2,000部</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○「毎日くだもの200グラム運動」の啓発活動支援</b></p> <p>毎日くだもの200グラム運動の啓発活動実施。 (実績)「くだものセミナー」の開催 1回。 情報誌「リビング熊本」の活用 12回。 小学生の社会見学(選果場) 通年。 県内幼稚園・保育園へのみかん・果物の情報提供 140園。</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○県内需要対応型野菜産地育成事業</b></p> <p>県内市場からの要望に基づき、ほうれんそう等の産地化及び地元市場への出荷拡大を図った。 (実績)八代(春キャベツ)、上益城・菊池(ほうれんそう)、天草(みずな、かぼちゃ)</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○一般社団法人熊本県野菜振興協会が実施する産地育成事業</b></p> <p>産地育成事業により79名が野菜ソムリエの資格を取得しており、県産野菜の消費拡大に向けた推進活動を県内各地の直売所等で実施。 (実績) 県内野菜消費PR活動開催(12回)</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○「くまもと花っていいよね。キャンペーン活動」(花き協会補助事業の一部)</b></p> <p>小中学校等を対象とした出張フラワーアレンジメント教室や、フラワーバレンタイン活動など、県産花きの消費拡大を図る活動を実施。 (実績) 小中学校出張フラワーアレンジメント開催(22回)</p>	<p>農林水産部</p>

<p><b>○くまもとの花新たな情報発信推進事業</b> 産地情報収集活動、ホームページや付加価値情報発信資材を活用した情報発信及び「くまもと産」表示による販売。 (実績) 毎月7日、8日の「くまもと花の日」の実施。産地表示連携店26店舗で産地・付加価値情報表示による販売実施(12回)</p>	農林水産部
<p><b>○くまもと畜産物流通戦略対策事業のうち熊本県産銘柄豚生産流通対策事業</b> 食の専門誌、観光リーフレットへの掲載、県HP及びバーコードリーダー等を活用した販売情報等の提供やイベント等でのPR活動等に取り組んだ。 (実績) 10月11日 銀杏祭 炭火焼きサイコロステーキ100kg</p>	農林水産部
<p><b>○くまもと畜産物流通戦略対策事業のうち熊本県産地鶏生産流通対策事業</b> 販促資材の作成・配布、県HP等による販売情報等の提供やイベント等でのPR活動等に取り組んだ。 (実績) 「天草大王レシピ本」の作成(30,000部)</p>	農林水産部
<p><b>○くまもと畜産物流通戦略対策事業のうち食肉流通体制強化推進事業</b> ホームページにおける県産牛肉のPR及び販売店等の情報提供、牛肉消費拡大キャンペーンの実施。 (実績) ホームページアクセス数約3万件。キャンペーン応募総数約1,500通。</p>	農林水産部
<p><b>○くまもと県産木材アドバイザー活動推進事業</b> 工務店や設計事務所の担当者等に対し、県産木材の特長や利用の意義等の講習会を開催して県産木材アドバイザーとして認定するとともに、アドバイザーによる県民への普及啓発活動を支援した。 (実績) アドバイザー新規認定9名、普及啓発活動支援3件</p>	農林水産部
<p><b>○くまもと地産地消の家づくり推進事業</b> 県内で県産材を使った住宅の新築又はリフォームする者に、県産の柱(90本相当)や畳表(8枚)を提供し、その住宅を使った見学会(3回)を開催した。 (実績) 県産木材提供戸数(132戸)、県産畳表提供戸数(110戸)</p>	農林水産部
<p><b>○くまもとの魚流通支援事業のうちくまもと四季のさかな活動支援</b> 県産水産物の消費拡大と認知度向上のために、「くまもと四季のさかな」をはじめとした水産物のPRイベントを開催。 (実績) 10月4～5日 くまもとの“魚”まつり2014</p>	農林水産部
<p><b>○職員住宅畳替に伴う県産いぐさの利用</b> 職員住宅の畳裏返しを実施。 (実績) 9棟、139戸、913.5畳</p>	総務部
<p><b>○水前寺2丁目宿舍畳替に伴う県産いぐさの利用</b> 平成26年度水前寺2丁目10号宿舍の入退去に伴い県産いぐさの畳表を使用した畳替えを実施した。(16畳)</p>	総務部

<p>○社会福祉施設等の人員、設備及び運営の基準等に関する条例に基づく地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉施設等の監査資料に地産地消の取組みに関するチェック項目を設け、未実施の施設等に対しては地産地消の取組みを積極的に実施するよう助言した。</li> <li>・介護サービス事業者等集団指導において地産地消の推進について周知した。</li> </ul>	健康福祉部
<p>○県産品販路開拓事業のうちくまもと物産フェア事業</p> <p>農商工の関係団体が連携し、県下最大級の食のイベントとして、第20回くまもと物産フェアを開催した。</p> <p>(実績)出展者:270企業・団体、入場者数:約24千人</p>	商工観光労働部
<p>○公営住宅維持補修事業(畳替に係る部分)</p> <p>県営住宅における畳の取替えにあたり、県産いぐさを使用した。</p> <p>(実績)県営八島団地外1団地 住戸数160戸 畳数1,945.5畳</p>	土木部
<p>○公営住宅ストック総合改善事業(住戸改善に係る部分)</p> <p>住戸改善工事を行う際の床改修において、県産桧材を使用した。</p> <p>(実績)県営東本町団地外6団地 計143戸</p>	土木部
<p>○警察施設維持管理事業</p> <p>更新時期に至った畳表の取り替えを熊本県産のいぐさにより実施した。</p> <p>(実績)30戸 572畳</p>	警察本部
<p>○患者給食材料の購入</p> <p>業務委託仕様書に地産地消の取組みについても盛り込んで発注し、可能な限り熊本県産又は熊本県内製造の食材の使用に努めた。</p>	病院局

### (3) 経済循環及び地域活性化

農林水産業と商工業、観光産業、学校等多様な産業又は組織との連携等により、県内農林水産物等を活用した加工商品の開発やイベントの開催等を行い、地域経済の活性化を図る。

主な取組み実績	部 局
<p>○くまもとの6次産業化総合対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食」、「農」アドバイザー小泉武夫氏による現地評価会、講演会を開催。</li> <li>・開発した商品の発表会、商談会を開催。</li> <li>・加工グループ等の活動、施設整備補助を実施。</li> <li>・6次産業化サポートセンターの活動を支援。</li> </ul>	農林水産部
<p>○くまもと地産地消活動支援等事業のうち地産地消協力店の指定</p> <p>募集期間を設け、チラシやラジオ、HPなども活用して募集するとともに、地域内で地産地消の連携活動を行うグループなども勧誘し、新たに55店舗を指定して地産地消協力店は662店舗となった。</p>	農林水産部

<p><b>○コンテスト等を活用した地産地消の意識啓発</b>  9月に加工食品コンクールを開催し、優秀な地域農産加工品の掘り起しを行った。(出品数約90件)  優秀品は全国ふるさと食品コンクールに出品し、うち1品が食品産業センター会長賞を受賞。</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○県産農林水産物を使った「おやつ」プロジェクト推進事業</b>  おやつの取組みの各種資料を作成し、イベント等の機会にPR、啓発活動に取り組んだ。「菓子組合おいし菓フェスタ」、「KTT夢まちランド」、「くまもと農業フェア」などに出演。</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○女性農業者等元気づくり事業</b>  農業経営に参画する女性農業者や地域農業の活性化にチャレンジする女性・高齢農業者の多様な活動(生産、加工活動など)を支援し地域農業の振興を図った。</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○6次産業化推進・加工施設整備支援事業</b>  県農産物の需要拡大と更なる高付加価値化を図るため、県産農林水産物を取り扱う企業が行う加工施設等の整備を支援した。</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○ふるさとの食継承・活用推進事業のうちふるさとの食ビジネス化事業</b>  食の名人の活動促進のため県域の研修・交流会を開催するとともに、物産館等が行う食の名人を活用した地産地消、地域振興の取組を支援した。(実績)取組支援:4団体</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○くまもとの米粉総合推進事業のうち新規需要米生産製造連携関連施設整備事業</b>  消費者ニーズに対応した玄米粉等の生産増や製造過程の効率化を図るため、粉碎設備や搬送設備の能力増強を実施。  熊本製粉(株)で実施</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○県産米粉パン地産地消促進事業</b>  県内小中学校等の学校給食で週1回程度の米粉パン導入を目指し、基準パンとの価格差助成を行うとともに、米粉パン利用促進のため各学校へPRポスターを作成・配付した。(実績)米粉パン提供数約270万個</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○球磨焼酎等ブランド確立推進事業</b>  地元産焼酎原料米を生産した農家に対し、主食用米並の収入を確保するための助成を実施  (実績)助成面積 133ha(平成25年から12ha増)  生産量 644t(平成25年から82t増)  供給蔵元 17社</p>	<p>農林水産部</p>
<p><b>○公共施設・公共工事における県産木材の利用推進本部会議</b>  県営及び県が補助する施設整備や土木工事等について、木材利用推進本部幹事会及び研修会を通じて関係課へ木材利用を働きかけた。  (実績)幹事会の開催1回、県・市町村担当者に対する木造施設現地研修会開催1回</p>	<p>農林水産部</p>

<p><b>○資産の有効活用(県有施設における自動販売機設置事業者の選定)</b> 自動販売機設置事業者選定の公募について、地産地消商品を優先的に取り扱う規定や県内で生産された農林水産物を加工した商品を1種類以上は含めることとする条件を設けたことにより、地産地消の商品が販売されることとなった。</p>	<p>総務部</p>
<p><b>○地域づくり夢チャレンジ推進事業のうち交流促進の取組</b> 市町村や地域団体による地域の食や文化等の資源を活用した取組みに対する補助を行った。 (実績)56件 108,581千円</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○地域づくり夢チャレンジ推進事業のうち「コミュニティ・ビジネス起業化の取組」「地域の支事(しごと)おこしの取組」「農業の地域資源(宝)活用」の取組</b> 地域団体による規格外の農産物を活用したレストランの開業や、新商品開発等の取組みに対する補助を行った。 (実績)16件 16,005千円</p>	<p>企画振興部 健康福祉部 農林水産部</p>
<p><b>○水俣芦北地域の地域振興事業の推進</b> ・継続して、春まきそばの安定供給と「日本一早い新そば街道」開催を実施し、定着化を図った。 ・米粉や黒砂糖を使い、アレルギー等にも配慮した、安全安心を提供できる商品開発を行った。</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○水俣・芦北地域産業振興と雇用創出事業</b> 関係市町及び経済団体と連携し、地域の事業者の展示商談会等への出展支援、建設業者によるアボカドの実証栽培など農建連携の推進、地域産品を活用した新商品の開発、ブランド化等に対する支援など、地域産業及び経済の活性化に資する取組みを実施した。</p>	<p>企画振興部</p>
<p><b>○地域力活用ビジネス創出支援事業</b> 地域資源を活用した特産品開発や既存商品のブラッシュアップ、販路開拓事業を行う小規模事業者を支援する商工会議所、商工会に対して支援を実施した。 (実績)9件 9,648千円</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○「食と健康」産業創出支援事業</b> マッチング支援アドバイザーを配置し、「売れる商品」づくりのための勉強会やプレゼン練習を行い、首都圏での展示会への出展を行いと商談会を開催した。 (実績)アドバイザーによる、のべ55回の指導を通して、展示会では8団体、商談会では7団体の販路開拓支援を行った。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○食品周辺関連産業技術振興事業</b> コーディネーター2名を配置し、県南地域を中心に食品周辺関連技術のシーズ発掘を行い、事業化可能性調査を実施した。 (実績)発掘した潜在的な事業化案件39件のうち、特に有望な4件について事業化可能性調査を実施した。</p>	<p>商工観光労働部</p>

<p><b>○熊本県食料産業クラスター協議会</b>  熊本県食料産業クラスター協議会が開催する食農連携促進企画運営会議及び講演会等に参加し、アドバイザーとして支援を行った。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○加工技術向上事業、農商工連携推進事業</b>  (1) 農業団体や農産加工グループ等を対象にした加工技術向上研修会(3回)や個別技術指導(163回)を行った。  (2) 地域ニーズに対応した技術支援(24件)を行った。  (3) 農商工連携推進交流会(2回)を開催した。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○農産加工研究開発事業(特別支援事業)</b>  農業研究センター等と連携して、品種や栽培履歴がわかる農産物のサンプル収集とH-ORAC法による分析を進めた  L-ORAC法での測定に向け、抽出を開始した。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○農商工連携推進事業</b>  熊本県農商工連携推進協議会及び支援等調整部会を開催し、情報交換等を行った。また、商工会議所等との共催により、農商工連携ビジネスマッチングを開催した。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○球磨焼酎等ブランド確立推進事業</b>  球磨焼酎酒造組合が実施する首都圏の消費者に向けたPRイベント(パネルディスカッション、試食・試飲会)に対し補助を行った。</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○プレミアム商品開発支援事業</b>  首都圏で自然食品、有機栽培農産物を取扱う高品質スーパー「(株)こだわりや」と県内事業者が連携して取り組む、県内の農林水産物を活用した加工食品の新商品開発及び販売促進に要する費用の一部について、補助を行った。(実績)3社(5商品)</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○新商品等販路開拓マーケティング支援事業</b>  くまもと農商工連携100選認定事業者等が、農商工連携により開発した新商品を県内でテストマーケティングする際に要する費用の一部補助、県外の展示商談会への参加費用の一部補助を行った。  (実績)13事業者</p>	<p>商工観光労働部</p>
<p><b>○物産展示場運営事業</b>  ○熊本県物産館の設置(家賃負担)  ・季節感や地域性を打ち出したフェア、県産品のお中元やお歳暮の販売促進、優良新商品表彰事業及び展示販売等を実施した。  ・県内及び県外のイベントや物産展に出展し、県産品の展示販売を行った。</p>	<p>商工観光労働部</p>

#### (4) 農林水産業が果たす多面的機能の再認識

農林水産業や食に関する体験イベント等を通じて、都市住民と農山漁村住民、生産者と消費者の交流活動を促進し、農林水産業が果たしている多面的機能（国土や自然環境の保全、水源の涵養、癒しの場など）への再認識を図る。

主な取り組み実績	部 局
<p><b>○くまもと地産地消活動支援等事業のうちくまもと食・農ネットワーク活動への支援</b> 「総会、研修会」において県内各大学の取り組みについてのパネルディスカッション、「地産地消のつどい」ではブルーサークルメニューをテーマに生産者と消費者等の交流を図った。</p>	農林水産部
<p><b>○都市農村交流対策事業</b> 都市と農村との交流事業を支援し、移住を視野に入れた交流、農山村の集落維持・再生に貢献できる交流活動を推進した。 (実績)2市町に対して補助した。</p>	農林水産部
<p><b>○中山間・水と土保全対策のうち子どもを対象とした農業体験交流支援事業</b> 子どもを対象とした農業・農村の体験学習を支援し、稲の作付から収穫までの一連の農業体験や地元農産物のPR・試食会等を行った。 (実績)1市4団体に対して補助した。</p>	農林水産部
<p><b>棚田ふれあい探訪ツアー</b> 都市部の参加者と地元住民の交流を通じて棚田のすばらしさと現状を伝え、県民の棚田保全への理解を深めることを目的に熊本県民を対象とした体験型ツアーを開催した。 (実績)県内4コースで開催した</p>	農林水産部
<p><b>○くまもとグリーン農業総合推進事業のうち流通・消費拡大促進事業</b> 県民大会及びキャンペーンを開催するとともにHPで情報を発信し、くまもとグリーン農業農産物の更なる流通消費拡大を図った。 (実績)県民大会参加者:520名、キャンペーン参加店舗数:延べ50店舗、フェイスブック「いいね!」数:1年で6倍超の500件</p>	農林水産部
<p><b>○ツーリズムの推進、交流</b> 中間支援組織確立のためのモデル事業の一環として、熊本県立大学と連携し、大学生向けの農家民宿モニターツアーを12月13(土)～14日(日)に開催し、その検証結果や他地域の事例を基に、中間支援組織の確立に向けた課題の抽出とその解決に向けた方策を取りまとめた。</p>	企画振興部
<p><b>○地域の縁がわ彩り事業</b> 「地元の産物を使用したこんにやく教室や園芸教室の開催」、「地域の方が作った農産物を販売する」など、地産地消に寄与する取り組みを行う地域の縁がわ(1団体)や地域ふれあいホーム(1団体)に対し、施設整備補助を行った。</p>	健康福祉部

**(5) 条例の周知、意識啓発等、条例の直接的な推進に係る取組**

主な取組み実績	部 局(課)
<p>○「くまもと地産地消推進庁内連絡会議」 「くまもと地産地消推進庁内連絡会議」「同作業部会」にて地産地消推進関係施策について検討、情報交換を行った。</p>	各関係部局
<p>○様々な広報媒体を活用した県民への条例周知 県庁ホームページや県地産地消サイトに条例や地産地消に関する情報を掲載、発信するとともに、様々な広報媒体を積極的に活用し、県民への条例の周知・浸透と地産地消の意識醸成を図った。</p>	農林水産部
<p>○イベント等での条例の周知及び情報発信 くまもと農業フェア、田崎市場感謝祭などの各種イベントに地産地消の条例周知と推進を目的としたブースを出展し、来場者に対して広く情報発信を行った。く</p>	農林水産部